

2018～19シーズン
アルペン強化セミナー

ルールについて

2018年8月5日(日)

(一財)東京都スキー連盟 競技本部



ルールの種類

アルペン競技においては、ICR以外に複数の特別ルールがあります。

1. ICR

2. Precision
行

3. Point Rule

4. Equipment

5. Special rules

国際競技規則

新決定事項：南半球版と北半球版年2回発行

ポイントルール

競技用品ルール

各カテゴリーの特別ルール

オリンピック冬季大会、FISアルペン世界選手権大会、
ワールドカップ、コンチネンタルカップ...Etc



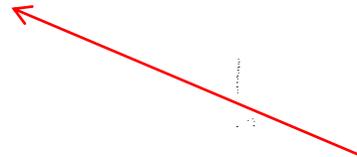
**THE INTERNATIONAL SKI COMPETITION
RULES (ICR)**

**BOOK IV:
JOINT REGULATIONS FOR ALPINE SKIING**

DOWNHILL
SLALOM
GIANT SLALOM
SUPER-G
COMBINED EVENTS
TEAM EVENTS
PARALLEL EVENTS
KO EVENTS

APPROVED BY THE 48th INTERNATIONAL SKI CONGRESS,
KANGWONLAND (KOR)

EDITION JULY 2012



EDITION JULY 2012

アルペンスキーの種目

- 滑降(ダウンヒル:DH) ICR700
- 回転(スラローム:SL) ICR800
- 大回転(ジャイアントスラローム:GSL) ICR900
- スーパージャイアントスラローム(スーパーG)
ICR1000
- コンバインド(クラシカル、スーパー) ICR1100

コースセットについて

	SL:回転			GS:大回転			SG:スーパー大回転
標高差 (FIS、国内A級、B級)	男子 140m~ 220m	女子 120m~ 200m	ユース K1、K2 100~160	男子 250m~ 400m	女子 250m~ 400m	ユース K1 140~300 K2 160~350	ユース K1 250~400 K2 250~450
ターン数 (標高差)	30~35% +- 3		32~38% +- 3	11~15%		13~18%	8~12%
旗門の幅	4m~6m			4m~8m			6m~8m:オープン 8m~12m:クローズ
旗門間の距離	ターニングポール間 6~13m バーティカルコンビ ネーション0.75~1m ディレイドゲート12m ~18m		ターニング ポール間 7m ~11m。 ディレイドゲー ト12m~15m	10m以上		10m以上、 MAX27m	ターニングポール 間 25m以上、旗門 のコンビネーション は15m以上

2018/2019 ユースSAJ公認レース年齢区分

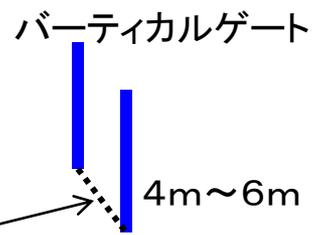
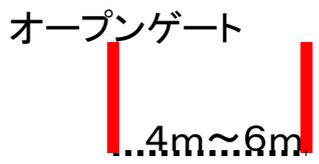
小5	小6	中1	中2	中3	高1早生	高1~高3
K1 (FIS U14ルール)		K2 (FIS U16ルール)				FIS (U18)

※全種目で軽量ポール(25~28.9mm)を使用すること。

SAJ B級・国体

コースセット(ゲート構成)

【回転】



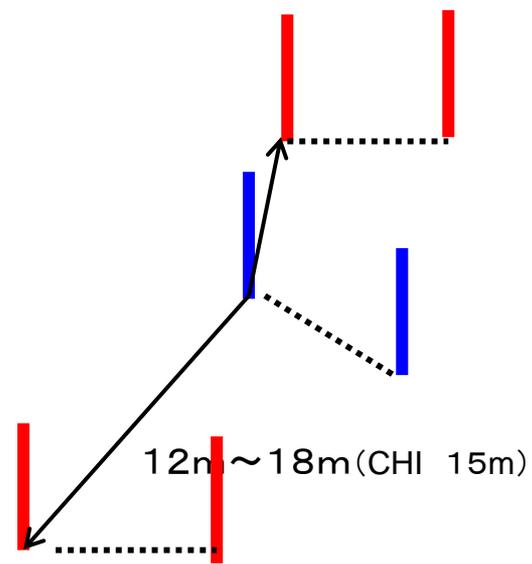
旗門線



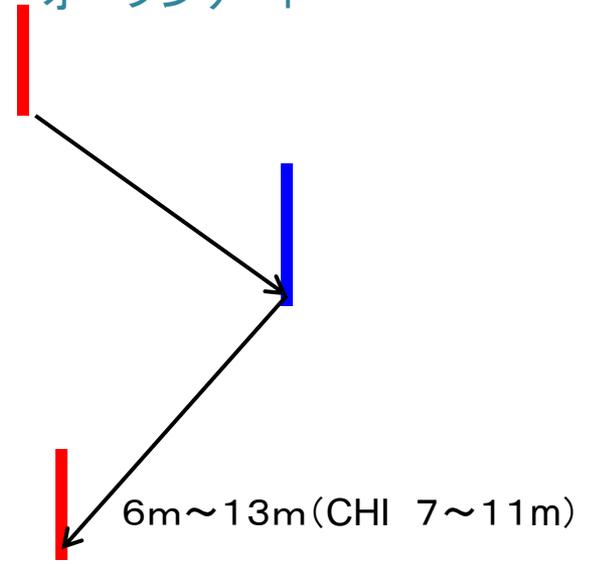
0.75m
~1m

4m~6m

ディレイドターン

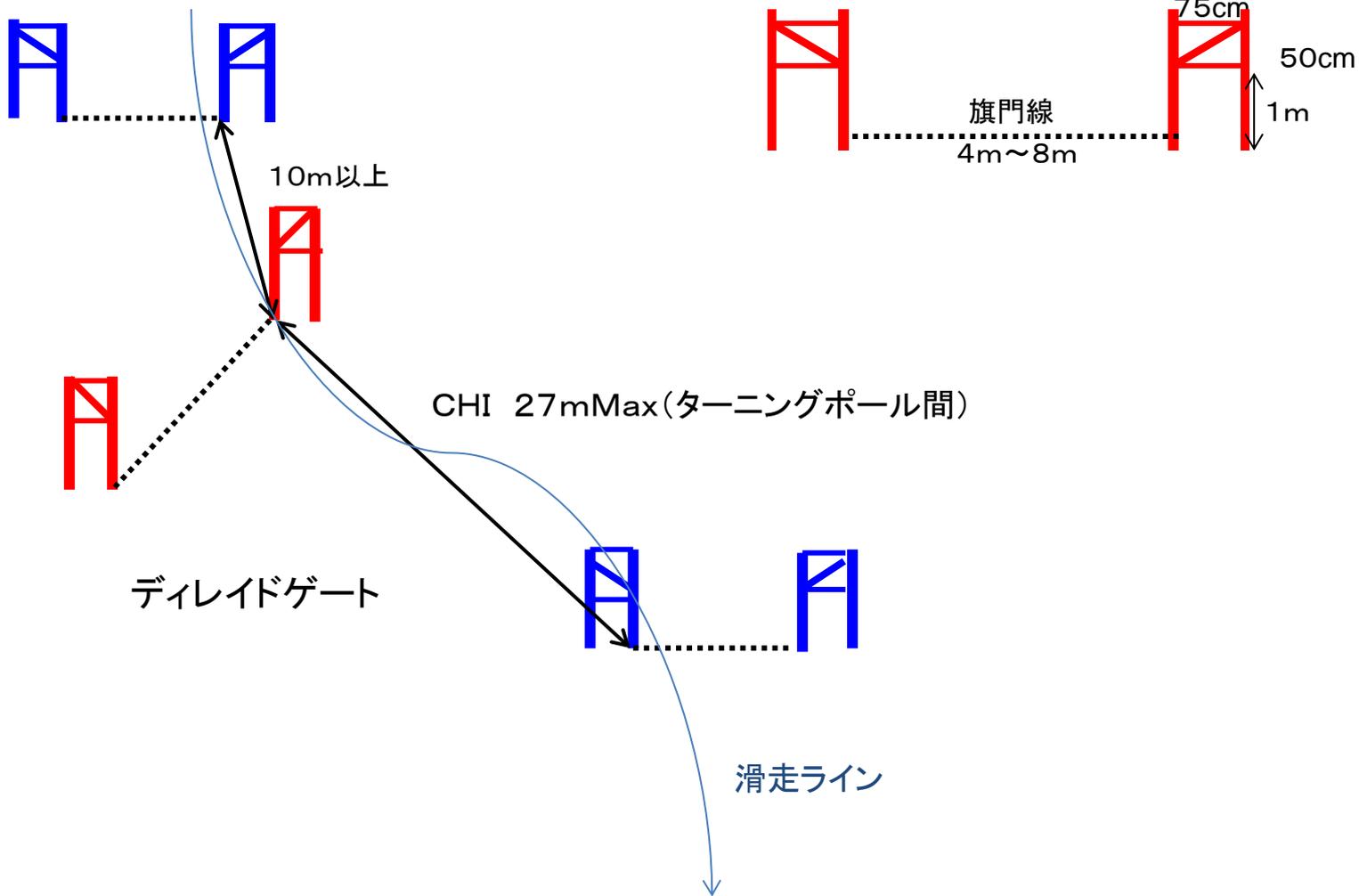


オープンゲート



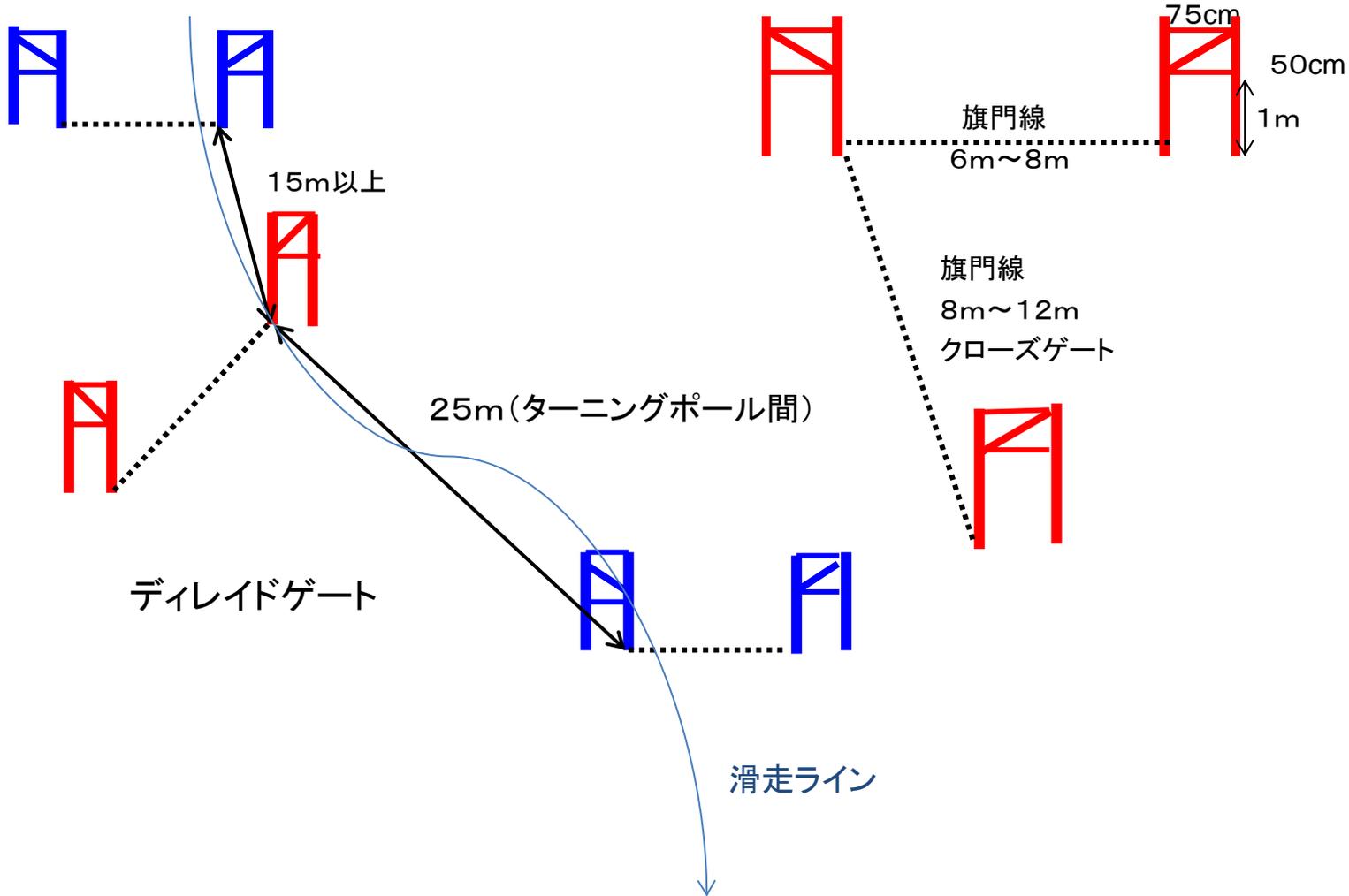
コースセット(ゲート構成)

【大回転】



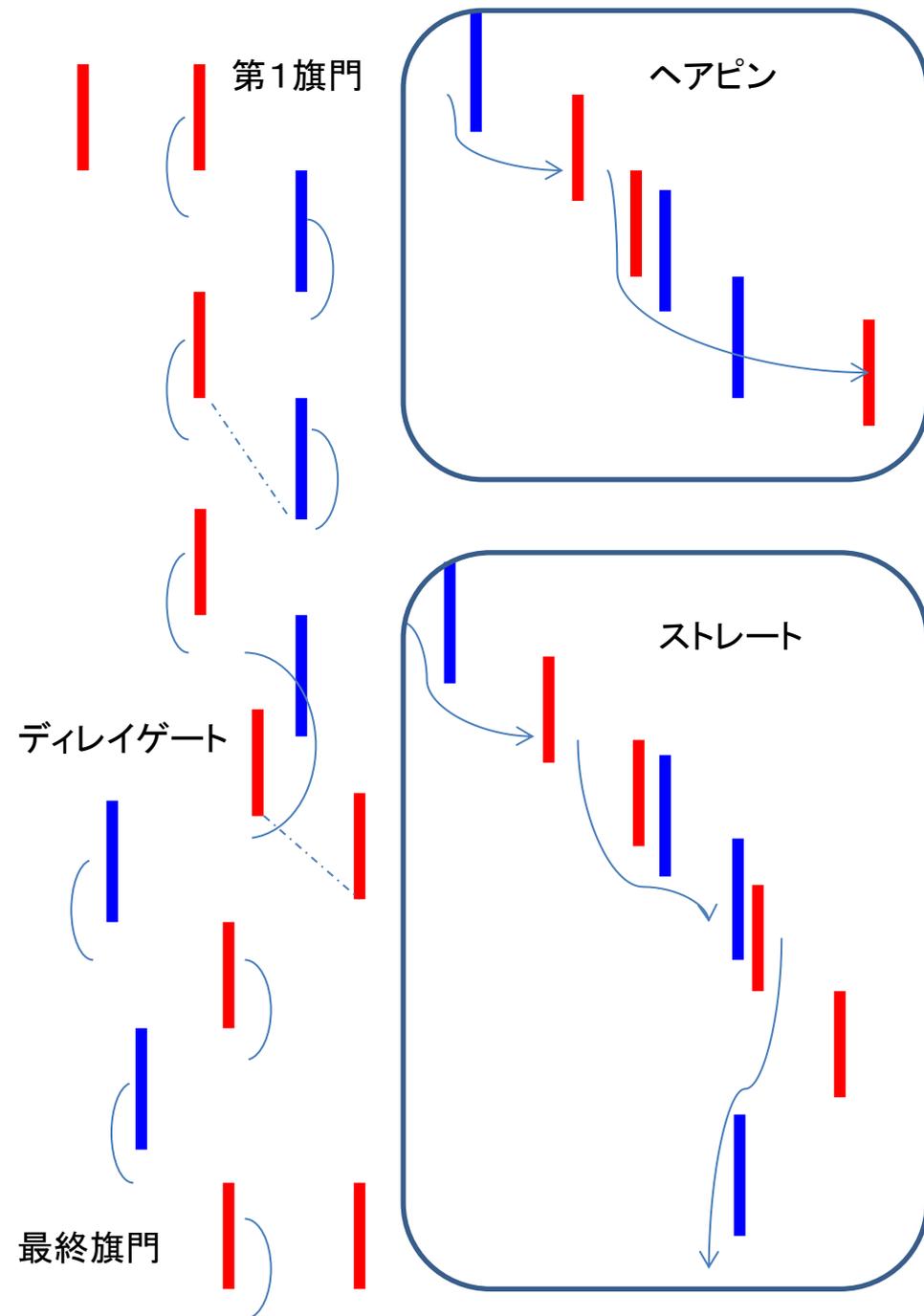
コースセット(ゲート構成)

【スーパー大回転】



シングルゲート(SL、GS)

- シングルゲート(SL、GS)はアウトサイドポールを持たない。但し、第一旗門及び最終旗門、ディレイゲート(GS、SL)、コンビネーション(ストレート、ヘアピン:SL)は例外である。
- 801. 2. 3
- コンビネーション内(ヘアピンやヴァーティカル)旗門の距離は、0.75m~1m以下でなければならない。ヘアピンやヴァーティカルコンビネーション内の旗門はストレートラインでセットされなければならない。



失格について

- スタートでのルール違反

第三者の力を借りてスタートする。フライングをする(前後5秒)

- コース中でのルール違反

正しい旗門通過をしていない(継続の禁止)、他の選手の滑走の妨害をする等(スイッチバック禁止等:GS)

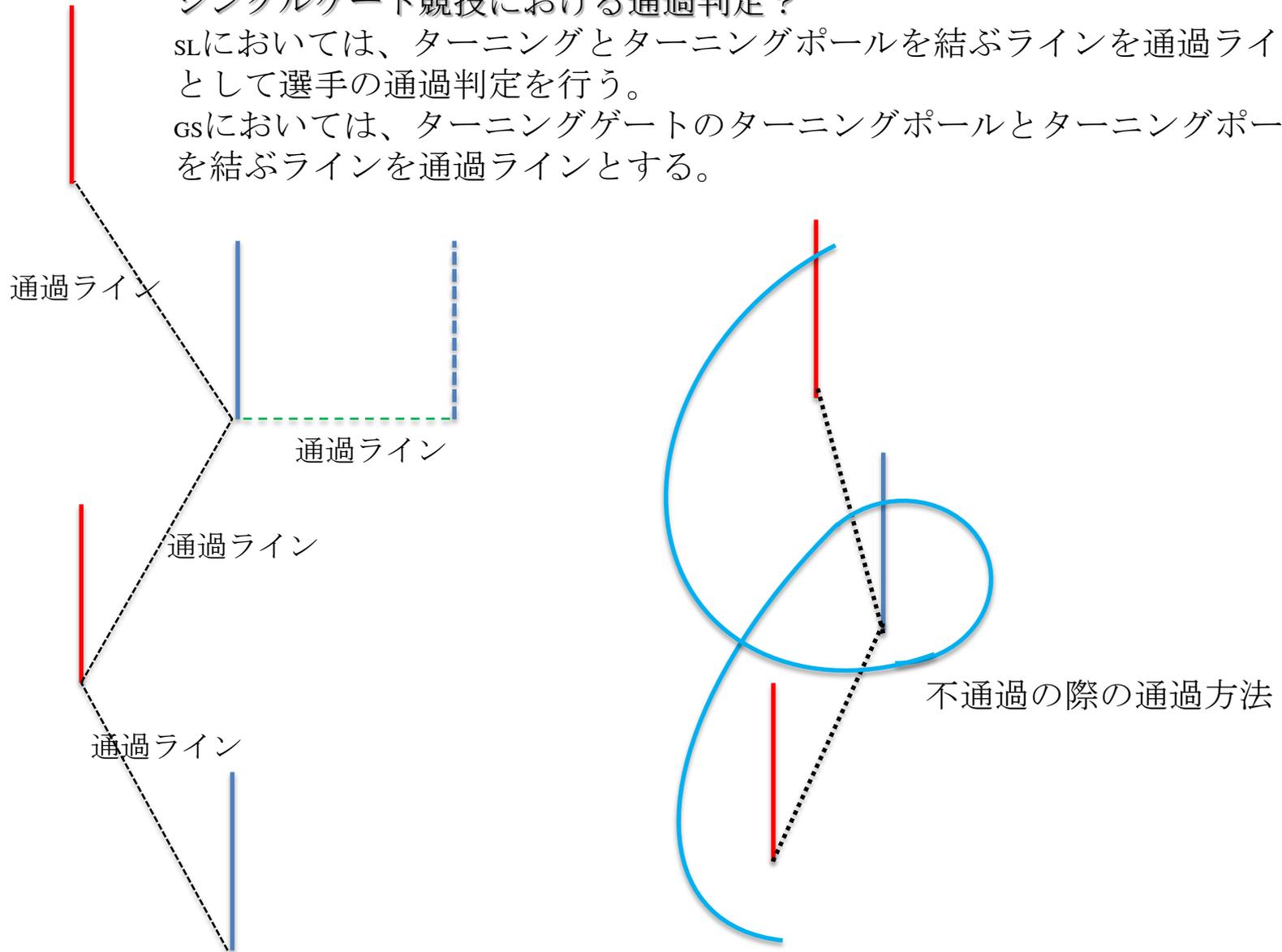
旗門の通過

- 661.4 正確な通過
- 661.4.1 選手の両スキーの先端と両足が旗門線を横切ったとき、旗門を正確に通過したことになる。
- 例えば、スラロームポールをまたぐといった不通過となる行為をせずに、選手の片方のスキーが外れてしまった場合は、もう片方のスキーの先端と両足が旗門線を通過しなければならない。
- このルールは、選手が旗門まで登って戻らなくてはならない場合にも有効である。
- 661.4.1.1 滑降、大回転、スーパーGの旗門線は、フラッグでつながったポール2組から成る旗門のインナーポール間の雪面最短線である。
(第661条、Fig. 1)
- 661.4.1.2 回転の旗門線はターニングポールとアウトポール間の雪面最短線である。
(第661条、Fig. 2)
- 661.4.1.3 選手の両スキーの先端と両足が旗門線を通過する前に、垂直に置かれたポールを選手が移動させてしまうことがあっても、両スキーの先端と両足で正規の旗門線を通過しなければならない。(雪上へのマーキング)
- 661.4.2 パラレルスラロームでは、両スキーの先端と両足がゲートマーカーの外側をターンの方向に通過したとき、正確な通過となる。
(第661条 Fig. 3)

シングルゲート競技における通過判定？

SLにおいては、ターニングとターニングポールを結ぶラインを通過ラインとして選手の通過判定を行う。

GSにおいては、ターニングゲートのターニングポールとターニングポールを結ぶラインを通過ラインとする。



Crossing the finish line

615.3 Crossing of the Finish Line and Recording of the Times

The finish line must be crossed:

- on both skis or
- on one ski or
- with both feet in case of a fall between the last gate and the finish line. In this case the time is taken when any part of the competitor's body ~~or equipment~~ stops the timekeeping system.

615.3 フィニッシュラインの通過とタイムの記録

フィニッシュラインは、次のように横切らなければならない：

- 両方のスキーで。または、
- 片方のスキーで。または、
- 最終旗門とフィニッシュラインの間で転倒した場合、両足。この場合、選手の身体または用具のどこかの部分が、計時システムをストップした時にタイムが計測される。

継続の禁止 = interdiction

Interdiction to continue

614.2.3 *Interdiction to Continue after a competitor stops*

If a competitor comes to a complete stop (e.g. after a fall), he must no longer continue through previous or further gates. This interdiction is valid in all events with a fixed start interval (DH, SG, GS). Only exception is for SL (art. 661.4.1), as long as the competitor:

- does not interfere with the run of the next following competitor or,
- has not been passed by the next a competitor.

614.2.3 選手が止まった後の継続禁止

選手が完全に止まった場合（例：転倒）、その選手は、前の旗門やその後の旗門を続けることはできない。この禁止は、固定したスタートインターバルがあるすべての種目（DH、SG、GS）に有効である。

SLにおいては以下の条件で例外とする。（661.4.1）~~、その選手が後続選手の滑走を邪魔しない、または、選手に抜かされない限り、スラロームは例外である（661.4.1）。~~

- ~~その選手が~~後続選手の滑走を邪魔しない、または、
- 次の選手に抜かされていない限り、~~スラロームは例外である（661.4.1）。~~

再レースについて

- ICR623 レース中に妨害を受けた選手は、妨害発生後直ちに停止し、ジュリーメンバーに再レースを申し出なければならない。この申し出は、妨害を受けた選手のチームキャプテンが行うこともできる。

- **妨害の根拠**

- ☆役員、観客、動物、その他障害物によるコース遮断

- ☆転倒した選手がすぐにコースを空けなかった場合のコース遮断

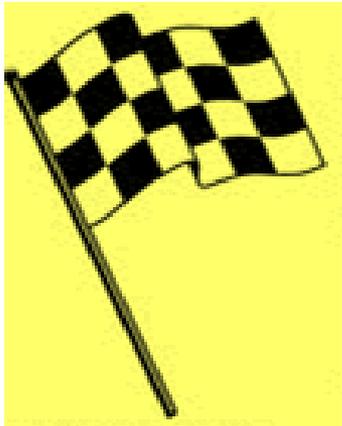
- ☆前の選手が落としたスキーポールやスキー等のコース上の障害物

- ☆選手を妨害する救急活動

- ☆前の選手が倒したり、すぐに元通りにしなかったため、旗門がない状態

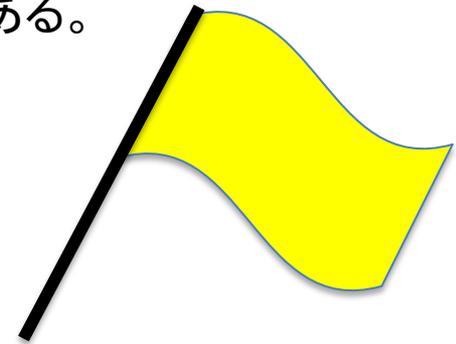
- ☆選手の意思やコントロールではカバーできないような、その他の類似の出来事で、明らかに減速せざるを得なかったり、滑走ラインが長くなったりして、タイムに影響を及ぼすことになる出来事

- ☆計時システムの不調



GS競技でもイエローフラッグを使用する場合があります。

高速化するGS競技において、安全性を深めるために、ジュリーの判断でイエローフラッグを設置する場合があります。



選手はイエローフラッグが降られた場合、直ちに停止し、再レースのためにスタートに戻る。

H26 山形蔵王国体



2018～19 マテリアルルール(抜粋) 1/2

マテリアルルールの変更は選手の安全等を考慮し、FISが適時変更をしている。

	SG	GS	SL
ビンディング下部分のもっとも細い部分の幅	65mm以下 シニア・ユース共通	65mm以下 シニア・ユース共通	63mm以上 シニア
スキー高	50mm以下	スキー板+プレート+ビンディング 全種目、全カテゴリ、男女共通	
ブーツ高	43mm以下	ヒール底部からインナーソールまでの間隔 全種目、全カテゴリ、男女共通	
ワンピース	FIS 新規格適合スーツには適合ラベル【CS2015】が表記される。 プロンピング(FIS冠)は2018/2019シーズン終了まで有効。		

2018～19 マテリアルルール(抜粋) 2/2

マテリアルルールの変更は選手の安全等を考慮し、FISが適時変更をしている。

種目	SG				GS				SL		
	女子		男子		女子		男子		女子	男子	
	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	スキー長	
FIS/NC	200	40	205	45					155	165*1	
A級	200	40	205	45					155	165*1	
国体					183	30	188	30			
B級	200	40	205	45					155	165*1	
K2	スキー長175 ラディウス27 SAJスキー長183 ラディウス30以上推奨				スキー長188以下 ラディウス17						
K1	スキー長・ラディウス共に体格、体力、 技能に適應したスキー				スキー長130 ラディウス14 SAJスキー長188以下 ラディウス17以上					130	

表記の数値は最小値。スキー長(cm)、ラディウス(R)

*1 U18の1年目(2001生まれ)はSLにおいて-10cmの許容差を認める。

2018～19 GS / SG / DH ヘルメットルール

安全性に対する新たな基準を満たしたヘルメットには、以下のシールが製造メーカーによって貼付される。



全てのFIS、SAJ A級、B級、ユース(A級、B級)新規格対応表示(FISステッカー【RH2013】)が明示されているヘルメットの着用を義務とする。

公式用品ルール6.2.4によりヘルメットにはメーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。

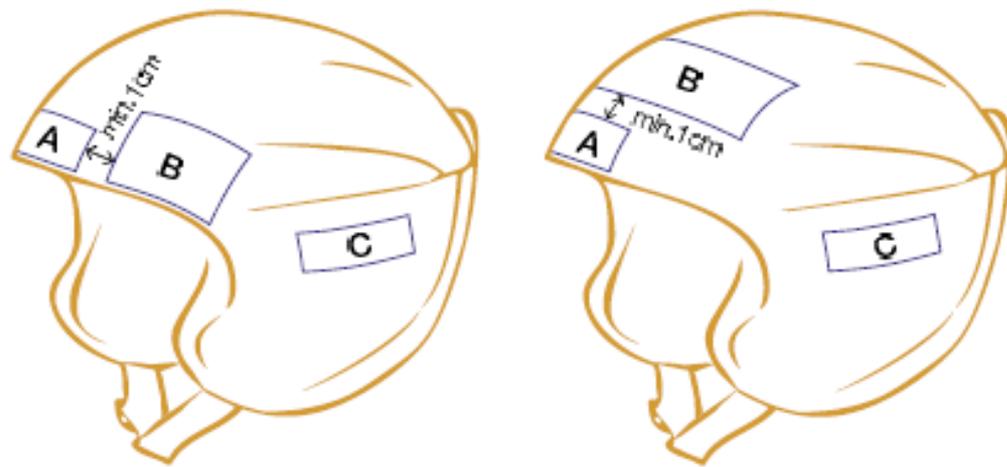
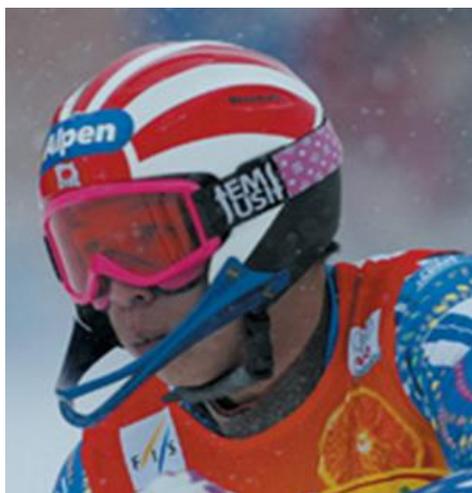


SL

耳の部分がソフトな素材を使う物も仕様が認めれる。

FISレースではEN1077またはASTM2040認証が必須である。

SAJレースは推奨。



コマーシャルマーキングも大切な守るべきルールです。
「A」はナショナルエンブレムの貼付位置。(必須)
「B」はスポンサーバナー、
左は 2スポンサー(25mm² × 2カ所)、
右は 1スポンサー(50mm² × 1カ所)。
貼付位置はナショナルエンブレムの位置を基準にし、
1cm以上離す。
「C」はヘルメットの製造メーカーバナー。

この選手の着用しているものは違反になりますが
競技会場でのルールですから、参考例までに

TCM、ドロー



ボードコントロール



ドロー



コンピュータードロー



ビブ配布



入賞した選手は必ず表彰式に参加する。

ご清聴ありがとうございました。